OSAKA GAKUIN UNIVERSITY　OSAKA GAKUIN JUNIOR COLLEGE

International Center Newsletter

TAKING OFF

Vol. 6

発行日 2010年 3月25日

大阪学院大学／大阪学院短期大学
国際センター　ニュースレター

1. 短期日本語研修生の受入れ：순천향대학교 & 배재대학교

国際センターでは、2009年1月から海外提携大学の短期日本語研修生受入れを開始しました。昨年度は、1月に韓国ペジェ大学が10日間、6月にアメリカミシシッピ大学が1ヶ月間の日本語研修を行いました。2010年は、まず年明け1月に韓国のスンチョンヒャン大学とペジェ大学がそれぞれ来学し、日本語研修を行いました。今号では韓国の学生たちが本学でどのように過ごし、日本滞在をどのように楽しんだのかをレポートしてみたいと思います。

目次:

短期受入れ日本語研修	1-2
派遣留学生レポート	3
OGU卒業生紹介	4
国際センターTOPICS	4

【スンチョンヒャン大学】

スンチョンヒャン大学は、1978年に医科大学として創立された私立大学ですが、現在では多くの海外提携大学を有し、毎年アジアや欧米各国から数多くの留学生を迎え入れている国際的な大学です。スンチョンヒャン大学とOGUは、2006年の学術交流協定締結後から毎年活発な学生交換を行っています。今年度もOGUの国際学部2年次生鳴海里咲さんがスンチョンヒャン大学へ1学期間留学をし、スンチョンヒャン大学からは5名の留学生がOGUにやってきました。

さらに1月には初めての短期日本語研修生として学生11名がOGUにやってきました。2010年1月15日から28日までと約2週間の短い滞在でしたが、午前は日本語と韓国語で学ぶ日本のビジネスと歴史の授業を受け、午後からはさまざまなイベントに参加しました。特にI-Chat Loungeで開催されたJ-Chatイベントは大盛り上がりで、「食べ物を通して日本を学ぶ」をテーマにゲームをし、大阪名物のたこ焼きを作って食べました。また国際交流プログラムの長期留学生やOGU学生も加わって、交流を深めながら、一緒に楽しんでいました。

週末には京都観光にも出かけ、清水寺、祇園、河原町を散策しました。良い天気に恵まれたこの日、何と八坂神社では結婚式が行われており、学生たちにとっては神社での結婚式を目撃するという幸運に恵まれました。また三年坂では舞妓姿の観光客と遭遇したり、散策しながらおたべや漬物の試食たりして楽しんでいました。しかし、歩いて周る観光に少々疲れ気味だったかな！？

またこの11名はホームステイも体験しました。日本語が堪能ではない学生も数名いましたが、ホストファミリーとの交流を通して、日本の家庭を垣間見ることができたのではないでしょうか。この場をお借りして、お忙しい中にご協力いただいたホストファミリーの方々に御礼を申し上げます。

（上）清水寺で
（下）修了式でのスンチョンヒャン大学の学生たち

【ペジェ大学】

ペジェ大学は、1885年に宣教師によって設立された非常に歴史ある大学です。現在は44学科で構成され、約13,000名の学生が学んでいます。昨年学術交流協定を締結したばかりと言うこともあり、OGU学生はまだ誰も留学していませんが、今年度ペジェ大学から初めて2名の留学生を迎えました。

今年も、昨年に引き続き30名近い学生が2010年1月25日から2月7日までこの研修に参加しました。聞くところによると参加希望者が100名を越えていたので、参加者を選抜しなければならなかったそうです。ペジェ大学で日本語を担当されているパク・キョンファ先生とシン・ソンヘ先生が引率者として来られ、学生たちはこちらでもこの2名の先生の日本語授業を受講しました。午後には、アサヒビール工場見学、インスタントラーメン発明記念館、京友禅体験、NHK放送局見学に加え、I-Chat LoungeでのJ-Chatイベントにも参加しました。またこのグループは千里山セミナーハウスに滞在し、毎日電車通学をしました。週末にはOGUのボランティア学生たちがセミナーハウスに一緒に滞在するなど、活発な交流が行われました。夜遅くまで卓球をしたり、外出をして寝不足になったようですが、学生たちは何よりもOGU学生たちとの交流を楽しんだようです！

修了式でのペジェ大学の学生たち

Language Partner

今回初の試みとして、OGU学生のボランティアグループであるISST (International Students Support Team)がスンチョンヒャン大学とペジェ大学の学生のLanguage Partnerとなり、日本語を教えるのみならず、日常生活でも一緒に遊びに出かけたり、食事をしたりと交流を深めました。韓国人の学生たちは、教室で言語を学ぶだけでなく、同年代の学生と交流することで生きた日本語を学び、またより一層日本社会や文化への理解が深まったのではないでしょうか。また同時にOGU学生にとっても、この取組みが、韓国を知り、韓国文化や韓国語に興味を持つ良いきっかけになったようです。次ページでは、今回Language Partnerとして取組んだISSTメンバー新田啓介君のレポートを紹介します。

“Language Partnerを通して学んだこと” 新田　啓介（外国語学部2年次生）

今回、スンチョンヒャン大学とペジェ大学からの学生たちのランゲージパートナーをしました。

まずスンチョンヒャン大学の学生が来日しました。到着したその日に連絡が来たので、初日から大阪駅で待ち合わせをし、大阪城や有名なショッピングモールなどを案内しました。またその後も学校で一緒に授業を受けたり、京都観光をしたりして、益々友情が深まりました。ただスンチョンヒャン大学の学生たちはホームステイだったため、話す時間が十分に取れなかったのがとても残念でした。

次に、ペジェ大学の学生ですが、彼らはホームステイではなく、千里山セミナーハウスに泊まっていたので、時間の許す限り自分から積極的にコミュニケーションをとるように心がけました。一緒に勉強をしたり、ゲームをしたりすることで、相手が少しずつ日本語を理解してくれるようになったのがとても嬉しかったです。また僕も少しですが韓国語を学ぶことができました。

今回の取組みを通して、自分が日本についてあまり知らないこと、また韓国についても知らないことが多いことに気づきました。一緒に観光に行った時に、韓国人学生から日本について色々と質問をされたのですが、全く答える事ができなくてとても悔しい思いをしました。そこでその日の夜に日本の歴史を調べて、翌日に学生たちに伝えることができました。これは私にとっても勉強になり、また歴史をもっと深く知っていけば、日本という国に誇りを持てる人間になれると思いました。と言うのも、私が韓国人学生から受けた印象は、彼らが韓国に誇りを持っているということです。それに比べると日本人はあまり自分の国に関心を持っていないように思います。

スンチョンヒャン大学の学生たちと
（本人後方右端）

また韓国人学生と接する中で、日本人よりも韓国人は上下関係がとても厳しいことも知りました。直接韓国学生たちと交流ができ、今まで知らなかった韓国を知り、今回は本当に貴重な体験をしました。これを今後のボランティア活動や自分の学生生活に活かしていきたいと思います。

スンチョンヒャン大学の学生たちは、先方の希望もあって全員ホストファミリー宅に滞在しました。短い期間ではありましたが、学生たちはホストファミリーと過ごした日々から多くのことを学んで帰国しました。今回、初めて留学生を預かってくださった藤内雅子さんは、OGUのエクステンションセンターで韓国語を学んでいらっしゃいます。そして今回の短期に引き続き、何と3月からは国際交流プログラムで日本語を学ぶ韓国人学生を長期で預かっていただいています。

“スンチョンヒャン大学からの留学生をお預かりして” ホストファミリー　藤内　雅子 さん

2010年1月15日夜、リムジンバスから降り立ったチャン・ソヒさんは、緊張した表情で「こんにちは、私はチャン・ソヒです。よろしくお願いします」と挨拶をしてくれました。「韓国から来たこの可愛いお嬢さんが、私のうちに来てくれるの？」と思ったら、韓国語で歓迎の挨拶を覚えて行ったにもかかわらず、すっかり忘れてしまって「アンニョンハセヨ」しか言えませんでした。

あくる日は土曜日だったので、どこに行こうかなと考えていたら、「一緒に来た他の学生と難波の『かに道楽』前で大学の宿題をしてきます」とのこと。前日に韓国から来たばかりの学生さんが、JR千里丘から難波の『かに道楽』まで迷わずに行けるのか心配になって、一緒に行くことにしました。他のお友達は一人で来られていたので、「本当は一人で来れたのに、私がついて来て嫌だったかな？」と考えていると、帰る私に「お母さん、送ってくれてありがとう。気をつけて帰ってね」と優しい言葉をかけてくれました。

毎日の食事はと言えば、ごはん、お味噌汁、干物、野菜、そしてソヒさんはキムチが嫌いなので、佃煮か韓国のりというものでしたが、「おかあさんのお味噌汁はおいしいね」と言ってくれ、特別なご馳走は何もしなかったのですが、日本の食卓が珍しかったようです。

また韓国はオンドルがあって部屋が暖かく、半袖で過ごしていると聞いていたので、「暖かい部屋着を持ってきてね」とお願いはしていましたが、私が用意した綿入れのガウン、暖かい靴下、スリッパをずっと愛用していたので、きっと日本の家は寒かったのだと思います。

娘のように可愛いソヒさんと楽しく過ごしているうちに、お別れの日が来ました。出発する朝にソヒさんが手紙を書いてくれていました。また今でも3日に一度はメールが届き、韓国の娘の様子を思う毎日です。

由木先生は、昨年のミシシッピ大学の短期研修に引き続き、スンチョンヒャン大学の日本語授業を担当してくださいました。また今年度より国際交流プログラムの午後のJapanese Bridgeクラスも担当してくださっています。先生のコメントから海外の学生たちが一生懸命に日本語を勉強する姿がうかがえます！

日本語講師　由木 美帆先生

今回、スンチョンヒャン大学の日本語研修を担当させていただきました。授業の中で、学生達はとても熱心で、辞書を片手に一生懸命、日本語学習に取り組む姿が印象的でした。学生達の努力の結果、8日間の短い研修期間の中でも日本語の会話力を磨くことができたのではないかと思います。ホストファミリーとの体験は非常によい思い出になったようで、学生達は楽しみながら様々な経験をさせてもらったと話してくれました。特に家族が作ってくれる手料理がおいしい！！という話題は何度も出ていました。ホストファミリーとの交流をはじめ、パク先生の経済の授業や、パク先生と国際センターの方々に連れて行っていただいたフィールドトリップと京都観光、OGUの学生ボランティアとの活動など、全てにおいて充実した内容の研修を終えて、学生達は「また大阪に戻ってきます！」との言葉と笑顔を残して無事韓国へ帰っていきました。また、いつの日か学生達に会えるのを楽しみにしています。

2. 2009-2010派遣交換留学生レポート

“留学で乗り越えた壁 ” オルレアン大学 鍛治谷 龍介（国際学部3年次生）

現在、フランスのオルレアン大学でフランス語を中心に学んでいます。ここでは交換留学生はもちろん、現地で正規の学生として学んでいる人たちも地方からオルレアン大学へ来ているので、様々なスタイルのフランス語や価値観に触れることができ、非常に勉強になります。フランスでは地方によってアクセントや訛りが大きく違いますし、アフリカやアジアから来た人たちが話すフランス語もまた独特で色々なスタイルがあります。

私が受講している授業でも、国や地域が持つ独自の冠婚葬祭の仕方やマナー、行事などをよく取り上げてディスカッションを行ったり、プレゼンをしたりします。初めのうちはこうした授業スタイルに戸惑い、他の国々から来ている留学生の語学力が非常に高かったので、ついていくのに悪戦苦闘しました。しかし、現在はそういった環境にも慣れ、また何かあっても迅速に対応できるようになり、気づけば自分でも驚くほど語学力が向上していました。これは、新しい環境に慣れたことで自然とリラックスできるようになり、心の余裕ができたからだと思います。

また新しい環境に慣れることができたのは、失敗が当たり前になったからだと思います。最初は、失敗することがすごく恥ずかしく、目立たないような行動ばかり取っていましたが、それでも失敗し続けました。でもそのおかげで、失敗が自分の中で当たり前になりました。また幸いにも、失敗した人を見下したり、嫌な顔をしたりするクラスメートは一人もいませんでした。むしろ、困ったときはいつも誰かがフォローしてくれました。このような環境で学べているからこそ、自然とリラックスできるようになったのだと思います。

語学を学ぶ上で大切なのは、失敗やわからないことがあっても当たり前だと思うことです。どんなに勉強をしても、どれだけ量をこなしても自分の語学力が伸びているのかどうか中々感じ取ることができません。誰かが言っていることや書いてあることがわからないとき、すごいストレスが溜まって、やる気がどんどん無くなってしまいます。そういう時こそ、楽観的になって良いと思います。失敗が当たり前になったことで、リラックスできるようになったと言いましたが、わからないことが当たり前だと思って、気負わずに努力し続けていれば、結果が勝手についてくることもこの留学で学んだ大切なことの一つです。

留学を考えている在学生の皆さんにも語学に関して色々な悩みがあると思います。良い勉強方法を知ることも大切かもしれませんが、もっと大切なことは常に前向きに努力し続けることだと思います。語学を学ぶ在学生の皆さんに少しでも参考になればと思います。がんばってください。

フランス　オルレアン大学

“台湾と私～台湾での7ヶ月の旅～” 静宜大学 小島　恵梨香（国際学部3年次生）

私は今、台湾中部にある静宜大学（プロビデンス大学）で中国語を学んでいます。そして、台湾に来てもうすぐ7ヶ月が経とうとしています。時間が過ぎるのはとても早く、あっという間の7ヶ月でした。ですから、残りの時間を悔いの残らないように過ごすには、どうすればいいのか悩んでいる最中でもあります。台湾といえば、日本に近く、日本の文化に非常に似ているといわれているので、日本人にとって馴染みやすい国だ思います。しかし、多くの人は台湾を中国の一部として見ることが多く、台湾はどこに位置しているのか、どのような国なのか、全く知らない人もいます。今回、7ヶ月で私が感じた台湾の魅力や文化、習慣などについて紹介して、みなさんに少しでも台湾を知ってもらえたらと思います。

「あっ甘い！」台湾に来て初めて飲んだお茶は紅茶のように甘く、最初のカルチャーショックだったことを今でも覚えています。台湾では一年を通して夏が一番長く、早くて3月頃には気温が18度から24度まで上がります。そのため、街の至る所に飲料店があり、飲み物は台湾人にとって欠かせないものなのです。注意しないといけないのは、台湾人にとっての飲み物の“普通”は、紅茶のように甘いお茶を指します。ですから、甘いのが苦手な人は、「砂糖なしで！！」と一言加えないと後悔しますよ。

高雄にて友人の家族と（本人左から4人目）

台湾文化の中で一番代表的なのが「夜市」です。安くて美味しい食べ物、珍しい食べ物の屋台が立ち並び、またショッピングや遊びも楽しめます。地域によって味や売っている物までも異なる魅力的な場所であり、台湾の至る所で見かけます。「食べ物の国・台湾」といわれるだけあって、屋台に並ぶフルーツや小龍包などはどれも美味しく外れがありません。しかし、ただ一つ「臭い豆腐」と書いて「臭豆腐（チョウドウフ）」といわれるものだけはとても臭く、日本人はみんな苦手です。台湾人からすれば、私たち日本人が納豆を食べることが理解できないのと同じことらしく、面白い文化の違いだと思いました。

私が今勉強しているこの静宜大学では、外国語学科が一番有名で、外国からの留学生も沢山います。中国語だけでなく、英語の習得のため留学に来ている学生も少なくありません。授業は4から6人の少人数クラスで、先生はみんな明るく活発で、一人ひとりきちんと足りないところを指摘してくれたり、時には授業の一環として水餃子を作ったり、おにぎりを作ったりなど、文化交流を楽しむこともできます。私たち交換留学生には、私たちを助けてくれる“学伴（シュエバン）”が2人付いてくれます。分からないことがあれば助けてくれますし、台湾での知らないことなど何でも教えてくれます。

台湾は小さい島国なので、時間があれば島を一周することも可能なほどです。交通は鉄道、新幹線、高速バスなどがあり、台中から北の台北、南の高雄までの所要時間は2時間半なので、いつでも遊びに行くことができます。旅好きの方には持ってこいの国だと思います。また、暖かくなると台湾東部に足を運べば、海や山、花畑など綺麗な景色を観ることができますし、少数民族の伝統的なお祭り行事も見ることができます。地域によって異なる特徴をもち、地方に足を運べば運ぶほど、また違った視点から台湾を見ることができ、決して飽きることはありません。

私が留学を決めたのは、ほんの些細なきっかけでした。しかし、そんな些細なきっかけが、今ではとても意味のあるものへと変化し続けています。留学生活での毎日は、無駄なものは何もなく、自分が望んで積極的に行動すれば、それは次へのステップとなり、また新しい自分を発見することもできます。語学取得はもちろんですが、せっかくです！！魅力溢れるこの国で、また、別の国で自分探しの旅に出てみませんか？

3. OGU卒業生紹介:“大学での四年間” 田辺 大智(2009年外国語学部卒)

田辺君は在学中より留学を目指し、3年次にアメリカ・ミネソタ州にあるセント・トーマス大学に留学をしました。その努力する姿を見て、多くの学生が目標にしている卒業生です。現在は、提携大学の1つであるミシシッピ大学の大学院修士課程で学んでいます。

大阪学院大学での4年間は私の人生の分岐点だったような気がします。高校まで野球をやっていたため、正直勉強は苦手でした。今はこうしてアメリカの大学院に在籍していますが、高校の英語のテストで平均点を越えた記憶はありません。そんな高校生活を送り、OGUに入学しました。大学での目標は英語をしゃべれるようになりたいというただ漠然としたものでした。その目標を達成するためにも、留学は欠かすことのできないものだと思い、初めて国際センターに行きました。そしてその場で『俺はUniversity of St. Thomasに行く』という目標を立てました。St. Thomasを選んだ理由はアメリカ人と一緒に正規科目が履修できる、奨学金の制度がある、それと一番高いTOEFLのスコアが必要だったからです。実際何も知らなかった当時の私は、TOEFLの点数を伸ばすことがどれだけ大変なのか知るよしもありませんでした。しかし、2年の頃から本格的に図書館、I-Chat Loungeなどを利用して勉強を始め、3年の夏から1年間St. Thomasへの留学が決定しました。

実際にSt. Thomasでの生活が始まり、アメリカ人に混じっての授業が始まると、ディスカッション形式の授業、ペーパー、リーディングと本当に苦労したことを今でも覚えています。アメリカ人の前でスピーチをしたり、プレゼンテーションをしたり、日本ではできないことをたくさんすることができたと同時に、すごく自信もつきました。授業以外では複数のクラブ活動に参加したり、ミネソタの冬には欠かせないスノーボードをしたり、クリスマスやサンクスギビングなどをアメリカ人家族と過ごしたりと様々な経験をすることができました。また日本という国を外から見ることができ、思っていた以上に日本って世界から見たら小さい国だなと感じました。日本の自動車メーカーや電気メーカーの名前を知っていても、それが日本のメーカーだということを知らない人もいて正直驚きました。また日本の素晴らしさを知ることもできました。ある授業で日本の教育についてのスピーチをした時に、日本人の識字率がほぼ100%ということを話したら、アメリカ人の学生の中には驚いていた人もいました。今まで書けて読めるのは当たり前と思っていたけれど、それも日本の教育が国民全員に行き届いているからであり、それを知った時は日本という国を誇りに思いました。ミネソタでの1年はとても素晴らしい経験でした。ただ留学したいではなく、絶対University of St. Thomasに行くと初めから決めていたから、目標が達成できたのではないかと思っています。

そして、今はミシシッピ大学のTESOL(英語教授法)プログラムの修士過程で勉強しています。学部の頃と違い、日々課題に追われ、リーディングの内容、量ともにとても大変です。ただ学部の時に交換留学をしていたので、少しはこちらの大学のシステムにも慣れていて、最初の留学ほど困惑することは少ないです。今の目標は大学院を予定通りに卒業することです。やはりこっちの大学や大学院を卒業するのには多大な努力を要します。しっかりと勉強し、そして卒業後は日本に戻り、こちらでの経験を活かせる仕事に就きたいと考えています。

大学4年間をどう過ごすかは自分次第です。もし何かやりたいことがあるならばすぐに行動してください。目標を掲げるのは簡単ですが、それを達成するのはとても大変であり、たくさんのものを犠牲にしなければならない時もあります。しかし、目標を達成した後の達成感、自信というのは、これからの人生に大きな影響を与えると思います。大学4年間という、長いようで短い時間を有効に使い、自分の夢を叶えてください。

St. Thomas留学時代にホストファミリーと

4. 国際センター TOPICS

CET & OGU 調印式

調印式でのSimpson社長と白井善康総長

大阪学院大学は、2010年1月19日に米国の留学機関であるCET Academic Programsとの間で協定書に調印いたしました。CETの親会社であるATA Inc.の社長Kate Simpson氏、CETアジアプログラム担当者であるAnthony Ogden氏とKate Maruyama氏を迎え、1週間に亘り今後の打ち合わせを行い、本年5月には1回目の留学生をOGUキャンパスに迎える運びとなりました。さてCETとはどのような会社なのでしょうか。1982年の設立以来、CETは革新的な海外留学プログラムをアメリカの大学生に提供しつづけており、現在では中国、チェコ共和国、イタリア、スペイン、シリア、ベトナムに約1,000名の学生を派遣しています。そして今回、OGUが国内唯一の派遣先として選ばれました。これまでは、海外提携大学からの留学生のみでしたが、今後はCETを通してやってくる留学生も仲間に加わります。OGUキャンパスは益々国際化が進みます!

韓国語スピーチコンテスト最優秀賞

外国語学部3年次生 松谷 英功

以前、ニュースレターにも登場した松谷君が、2010年2月21日(日)に大阪韓国文化院で開催された「第8回 話してみよう韓国語(大阪大会)スピーチ部門」(主催:駐大阪大韓民国総領事館 韓国文化院)に出場し、「韓国語を学んだきっかけ」と言うタイトルのスピーチで見事に最優秀賞を受賞しました。今後も日本と韓国の架け橋としての活躍を期待します!

新規海外提携大学

2010年2月15日に初の東欧提携大学が誕生しました。チェコ共和国の首都プラハにある「プラハメトロポリタン大学」です。プラハメトロポリタン大学は、2001年に創立された比較的新しい大学ですが、海外に多数の提携大学を有し、毎年多くの学生を海外に派遣し、また留学生も多数受け入れています。2010年秋からの交換留学派遣先の一校として追加されました。

さらに3月15日には、フランスのパリにあるビジネススクールESCEも新たに加わり、これで学生交流が可能な大学が世界21カ国、42校になりました。

賞品を手に (松谷君中央)

大阪学院大学・大阪学院短期大学 国際センター
〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目36番1号
Tel: 06-6381-8434(代) Fax: 06-6381-8499 Email: inoffice@ogu.ac.jp